

# クローズアップ

# 豊岡の教育は今!



市では、保育所・幼稚園・小学校・中学校の連携をさらに強化させ、豊かな心、健やかな体、確かな学力を育てるための連続した保育・教育を進めていきます。その中で、学力向上と不登校対策、教育環境整備について主要な取組みを紹介します。

《問合せ》こども教育課 ☎23-1452 または 教育総務課 ☎23-1117

## 学力は…

### ● 小中の9年間の指導を冊子に

小中学校の教員たちでつくる豊岡市学力向上検討委員会が、冊子「算数・数学9年間のカリキュラム」を作成し、全教員に配布しました。

子どもたちが小中学校でスムーズに学べるように、市独自の調査や全国学力テストの結果を分析し、正答率が低かった「図形領域」でカリキュラム（指導内容や方法）作りに取り組みました。

冊子には、小学1年から中学3年までの学習内容の関連性を分かりやすく表したマップ形式の「カリキュラム図」（A3版）1枚を付けました。図形の性質を中心にした内容は「青」、面積は「黄」、立体は「赤」で色分けし、学年の流れを縦で示し、関連のある学習内容は矢印でつなぐなど、工夫を凝らしました。

また、「指導資料集」では、面積や円周といった単元ごとに、指導内容、用語、記号、他学年との系統性などを紹介しています。

この冊子を活用することで学習内容の系統性が明らかになり、例えば、子どもたちが今学習していることが分かりにくい時、前の学年の学習内容に戻って容易に学び直しをさせることができます。また、小学校高学年では、中学校の学習内容や方法を確認しながらスムーズに移行できるように学習が展開できます。

今後、さらに小中学校教員が合同で研修会を開催するなど、授業づくりをより一層充実させていきます。



▲冊子「算数・数学9年間のカリキュラム」

## 新学習指導要領への対応

### ● 小学校外国語活動について

新しい学習指導要領（どの内容をどの学年でどのように教育するか基準）が発表され、今年度から前倒し学習が始まりました。

とりわけ小学5・6年生に新しく導入された外国語活動については、学習内容や教材の効果的な活用など指導者の研修が急務となっています。

市では、学校間で指導内容に大きな差が生じないように市内で統一したカリキュラム（年間15時間実施）を作成しました。

カリキュラムには、1時間ごとの活動のねらい、扱う表現、活動の進め方、用意する教材などを載せています。小学校の外国語活動は、文法や単語を覚えることではなく、英語を使ってコミュニケーション体験をすることです。そこで、活動例には、あいさつ、自己紹介、買い物、食事、道案内などの場面を設定し、友達とのかかわりを大切にしたい体験的なコミュニケーション活動をふんだんに取り入れています。

また、このカリキュラムを使用した教員研修会も実施しました。自ら子ども役になり、模擬授業を体験した参加者からは「見通しができ、楽しく活動ができそう」と意欲的な感想が聞かれました。

今後、6月と8月にも教員研修会を実施し、各小学校とも2学期から外国語活動を開始する予定です。



▲研修会での模擬授業の様子

## 不登校対応は…

### ●保・幼・小・中の連携

豊岡市における不登校児童生徒の状況は、次のとおりです。

＜不登校児童生徒の状況＞

年度	17年度	18年度	19年度	20年度
小学校	11人	8人	7人	2人
中学校	52人	41人	57人	54人
計	63人	49人	64人	56人

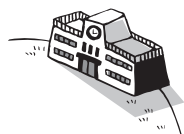
※不登校による年間30日以上欠席の児童生徒数

特に、小学6年生の時と、中学1年生の時を比べると、不登校生徒が大幅に増え、多い年には6倍にも昇りました。

これは、小学校から中学1年生になった途端に中学校の学習や生活に適応できなくなり、不登校に発展する「中1ギャップ」と言われる現象です。

市の実態調査でも、中学1年生になって授業にとまどいを感じている生徒が約30%います。

中学1年生での不登校



急増を抑制するには、中学校が早い段階で子どもの状況を把握することと、それに応じた早期の対応が重要です。

市では、平成20年度、不登校の未然防止対策として「中1ギャップ」の解消に向けた取組みを強力に推進してきました。

その1つが、学校間や職員間の連絡会での情報交換などを中心とした小中の引き継ぎシステムの導入です。

また、中学校の生活、特に学習について、子どもの様子を肌で感じるために、中学校の教師が小学校に出向き、授業をする出前授業を積極的に実施しました。

さらに、市内の小学校の調査によると、最初の集団生活（保育所・幼稚園）でつまずき、その時の対応を誤ると高い確率で小学校期に不登校現象が表れると報告されており、保・幼・小の連携の重要性を改めて感じます。

今年度もすべての学校で小中連携教育を強化し、学校、家庭、地域、そして関係機関が一体となって、不登校を減らす取組みを進めます。



## 教育環境は…

### ●校庭の芝生化事業（新規）

低コストの芝生化方式を採用し、校庭の芝生化を平成21年度から実施します。

芝生化することにより、次の3つの効果が期待されます。

#### ①心身の発育向上

子どもの外遊びや群れ遊びが増えることにより、運動、コミュニケーションといった力が向上します。

また、運動時の衝撃を弱め、外遊びでの安全性を高めます。

#### ②環境の改善

真夏でも芝生の表面温度は土と比べて低く、ヒートアイランド現象を緩和します。

泥水や砂ぼこりを防ぐとともに、芝生の緑は、地域の美観形成や人々の心に潤いを与えます。

#### ③強くなる地域と学校とのきずな

地域の人々の校庭利用が増進し、学校園が地域スポーツや行事の拠点となります。

管理に地域の皆さんが参加していただくことで、子どもたちと接する機会が増え、あいさつや笑顔の輪が広がります。



芝生化は、

子どもたちの発達段階を考え、保育所・幼稚園は土遊びの部分を残します。

今年度は、

モデル事業として幼稚園5園（豊岡めぐみ・港東・日高・出石・小坂）と小学校2

校（豊岡・港東）で芝生化を実施し、将来はすべての保育所・幼稚園・小学校の芝生化を目指します。

### ●学校の耐震化事業（継続）

平成19年度から学校施設の耐震化を進めており、平成20年度は、豊岡北中学校の工事に着手しました。

平成21年度は、事業のスピードアップを図り、竹野小学校、港中学校、日高西中学校の耐震化工事に着手し、今後も危険性の高い建物から順次整備を進めて行く予定です。各学校の耐震診断結果は、市ホームページで公開しています。



▲芝生で遊ぶ園児（鳥取市）



▲芝生で遊ぶ児童（鳥根県安来市）